

児童発達支援自己評価表 [事業者向け] 令和元年度

児童発達支援 キッズクラブコフジ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		登記上は問題無いが、人数の増加や身体の成長に伴い狭さを感じるようになってきている。
	②	職員の配置数は適切であるか	○		定数以上の配置をしている。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○		発達に遅れや偏りのある児童に対し、生活しやすい空間をつくるため、写真や絵カードを使用した視覚提示をおこなうなど、構造化をすすめている。
	④	生活空間は清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子どもたちの活動に合わせた空間となっているか	○		毎日の室内清掃はもちろん、次亜塩素酸を噴霧して空間除菌をおこなっている。
業務改善	⑤	事業者改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	○		毎月の職員会議の中で、児童個別の療育目標を達成できたか、出来ていないかの振り返りを全員参加で行い、情報を共有している。
	⑥	保護者向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○		さまざまなご意見を頂ける良い機会であり、良いところは更に伸ばせるように、悪い点は改善していけるように努めていきたい。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		ホームページで公表するとともに、各家庭に資料を配布して、改善点などをフィードバックしていく。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善に繋げているか		○	第三者評価は受けておらず、今後の検討課題とする。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		職場内研修や外部研修へ参加するほか、㈱アスムによるコンサルテーションを通じて、支援力や質の向上に努めている。
	⑩	アセスメントを行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		NCプログラムによる領域別発達アセスメントの結果を踏まえて支援計画を作成し、発達支援を行っている。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		NCプログラムによるアセスメントを実施している。
	⑫	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		分野別（製作、知育、リトミック）に日替わりプログラムを提供し、各自のレベルに合わせながら集団療育、個別療育を提供した。
	⑬	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		その日のプログラム担当者が計画、準備をして実施している。

連携関係機関や保護者との連携

⑭	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○		計画を掲示し、全職員が週に1回は必ず確認をするようにしている。
⑮	子どもの状況に応じて、個別活動と集団行動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	○		個室で行う個別療育と、集団の中で各児童の発達段階に合わせて行う集団療育への取り組みを支援計画に反映させながら行っている。
⑯	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		今日の活動内容や意義を確認し、役割分担をして取り組んでいる。
⑰	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか	○		毎日、送迎終了後に、居る職員で振り返りを行っている。居ない職員へは、翌日の朝に振り返りや情報共有をしている。
⑱	日々の支援に関して正しく記録を取る事を徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○		出来るだけ個別支援計画に沿った記述をするように心がけると共に、その時々課題や気になることを中心に、その日に登園したすべての児童について記録をとっている。
⑲	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		毎月1回はモニタリングを行いながら、半年に一度は計画の見直しを行っている。
⑳	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○		糸島市子育て支援センターや相談支援機関等との情報共有、情報交換を行っている。
㉑	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		児童発達支援管理責任者が出席している。
㉒	移行支援として、保育園や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		幼稚園やこども園、保育園へ移行(並行利用)するにあたっては、出来る限り訪問による打ち合わせを行っている。また、情報共有シートを作成し、移行先への情報提供を行っている。
㉓	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○		小学校等への就学にあたっては、情報共有シートを作成して保護者へお渡ししている。
㉔	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○		福岡市西部療育センターとの情報共有や、糸島市内における他の児童発達支援事業所との連携を行っている。
㉕	保育園や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	○		当法人が運営する福岡市の弥永保育園へ定期的にでかけ、行事やイベントを共に楽しんだり、給食を一緒に食べたりしている。
㉖	(地域自立支援)協議会児童部会等へ積極的に参加しているか	○		糸島市自立支援協議会児童部会は年3回開催されており、可能な限り参加するようにしている。
㉗	日頃から子供の状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		連絡帳による伝え合いはもちろん、日々の送迎や保護者による送り迎えの時に情報共有をおこない、発達課題等についても共通理解を図るようにしている。
㉘	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○		家族支援プログラムとしては実施していない。どのような方法で行うかを含めて検討課題とする。
㉙	運営規定、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		契約時にご説明をしているが、出来るだけ分かりやすいように配慮したい。

保護者への説明責任等	③⑩	児童発達支援計画を示しながら、支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○	出来るだけ具体的でわかりやすい内容になるように配慮したい。
	③⑪	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○	不定期ではあるが、保護者様よりご相談があった際には出来るだけ丁寧に応じるようにしている。
	③⑫	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○	保護者レクリエーションと保護者総会を、それぞれ年に1回ずつ行っている。(本年度はコロナウィルスの影響で3月の保護者総会は中止)
	③⑬	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○	苦情受付窓口等については、契約書に記載している。苦情ではないが、さまざまな相談や申入れ等については、児童発達支援管理責任者を中心にスタッフと話し合いを行い、迅速に対応するよう心掛けている。
	③⑭	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○	毎月1回、お便りを各家庭に配布しているほか、本年度途中よりLINEを活用した情報発信や保護者との連絡のやりとりを行っている。
	③⑮	個人情報の取り扱いに十分注意しているか	○	各家庭の承諾書に基づいた取扱いを徹底するほか、電子画像等については、その取扱いに十分注意している。
	③⑯	障害のある子どもや保護者との意思疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○	現在のところ、保護者との意思疎通において特別な配慮を要する状況は無い。
	③⑰	事業所の行事に地域住民を招待するなど地域に開かれた事業運営を図っているか	○	地域住民との交流行事等は特に行っていない。安全面の観点からも慎重に検討したい。
非常時の対応	③⑱	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知しているか	○	各マニュアルは策定しているが、必要な内容については保護者へも周知をしていきたい。
	③⑲	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○	近年は災害発生のリスクが高まっており、現状では訓練の実施頻度が不十分と思われるため、今後は回数を増やしてリスクに備えていきたい。
	④⑰	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を把握しているか	○	利用開始前に健康面や服薬の状況については聞き取りをしているが、予防接種の状況は聞き取れていないため、今後の対応を検討する。
	④⑱	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○	必ず、年に一度は虐待防止研修に参加するほか、外部研修等を通じて権利擁護について学ぶ機会を設けている。
	④⑲	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○	身体拘束については「切迫性」「非代替性」「一時性」が要件であるが、現在対象となるケースは無く、行っていない。
	④⑳	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○	利用開始前には、食物アレルギーの有無について聞き取りを行っているが、現在対象となるケースは無い。
	④㉑	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○	ヒヤリハット事例を積み上げ、全職員で回覧し、周知することで事故へとつながらないようにしている。